

アリス＝紗良・オットのショパンとフランス作品を聴くー

それは磨き抜かれたピアノイズムから作品のすばらしさを受け取り、ともに音楽の喜びを味わうこと

アリス＝紗良・オットのピアノは、主張が強い。楽譜から読み取ったものを存分に咀嚼し、自身の感情、解釈、表現を熟成させ、ひとつひとつの音として生み出していく。その演奏には、作曲家の魂に寄り添い、作品のすばらしさ自分の音で伝えようとする強い信念と情熱と使命感が宿っている。

アリスは子どものころから「自分のアイデンティティー」について悩んできた。ドイツ人なのか日本人なのか、自分は何者なのか、さまざまな悩みが彼女の内面にずっと居座り続けた。しかし、ピアノを弾くことで自己を表現する手段を得、心が解放された。そんなアリスのピアノは情感豊かで雄弁、聴き手の心にストレートに語りかけてくる。そこには、彼女の人生哲学が映し出され、聴き手に勇気を与える。

「私はことばで自分の意志を伝えるよりもピアノの方が的確に伝えられます。聴衆とのコミュニケーションに熱い感動を得ることができ。以前は悩み多き人間でしたが、いまは迷いはありません。ピアノで人々との交流ができ、自分の音楽を理解してもらえるか

らです。特に日本の聴衆とのコミュニケーションは、私にとってとても大切なもの。ですから、常に新たな作品で日本公演を行い、私の成長を聴き取ってほしいのです」

今回は、子どものころから愛奏してきたショパンに加え、新たなレパートリーが登場し、フランス作品で真価を問う。フランス作品に内包されたエスプリやウイット、ユーモアなどの繊細かつ微妙でニュアンスに富む表現をアリスがどう描き出すか、興味は尽きない。「私は新たな作品と対峙するとき、リスクは怖れません。これまでコンサートや録音に際して新しい作品と向き合い、どうしても納得いく演奏ができず、深く落ち込むことも多かったのですが、この新しい扉を開けることができれば次のステップに進むことができると自分にいい聞かせ、歯を食いしばって練習してきました。日々、試行錯誤の繰り返しですが、それが音楽家の道なのです」

アリスのショパンとフランス作品を聴くーそれは磨き抜かれたピアノイズムから作品のすばらしさを受け取り、ともに音楽の喜びを味わうこと。さあ、至福の時間を過ごしましょう！

音楽ジャーナリスト 伊熊 よし子

Profile

真の芸術家である日系ドイツ人ピアニスト、アリス＝紗良・オットは、毎シーズン新しい聴衆を獲得し続けている。2016/2017シーズンには8枚目となるCD「ワンダーランド」を録音し、ドイツ・グラモフォンとの長く確立した関係を継続した。エサ＝ベッカ・サロネン率いるバイエルン放送交響楽団と録音した今作は、ノルウェーの作曲家グリーグの楽曲を収録しており、グリーグの名作のピアノ協奏曲、「抒情小曲集」、「ペールギュント」組曲の中にある魔法と想像の世界を探索している。2016/2017シーズンにはこのプログラムで日本、台湾、ヨーロッパ(ベルリン、ミュンヘン、シュトゥットガルト、オスロ)のツアーを行った。

アリス＝紗良・オットはこれまでに、ロリン・マゼール、グスターボ・ドゥゲメル、シャルル・デュトワ、パブロ・ヘラス＝カサド、パーヴォ・ヤルヴィ、ネーメ・ヤルヴィ、ジャンドレアノ・セガ、アンドレス・オロスコ＝エストラーダ、ユリー・テミルカーノフ、ウラディーミル・アシュケナージ、サカリ・オラモ、オスモ・ヴァンスカ、ヴァシリ・ペトレンコ、チョン・ミョンフン、ハンヌ・リントウ、ロビン・ティチアーティなどの世界の名指揮者たちと、オーケストラでは、ロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団、シカゴ交響楽団、ワシントン・ナショナル交響楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、ウィーン交響楽団などの世界の名門オーケストラと共演を重ねている。

2017/2018シーズンは、地元ドイツでベルリン放送交響楽団との共演で始まり、ベートーヴェンのピアノ協奏曲5番をチェコ・フィルハーモニー管弦楽団と共演するツアー、そしてパーヴォ・ヤルヴィ指揮シンシナティ交響楽団とのアメリカでのコンサートがそれに続く。年末にはアントニオ・パッパーノの無比の指揮の下、ロンドン交響楽団とリストの「死の舞踏」を共演し、ふたたび「ワンダーランド」のレパートリーを携えて上海、広州、北京、四川でリサイタルを行う。2018年にはヨーロッパに戻り、ケルン(ケルンWDR交響楽団)、パリ(フランス国立管弦楽団)、ドレスデン(ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団)、デュッセルドルフ(デュッセルドルフ交響楽団)でコンサートを行う。

また、これまでに世界中の様々なブランドと強力な関係を築いており、パナソニックのHi-Fiオーディオブランド「Technics」のブランド・アンバサダーに起用されたほか、その創造的才能が認められ、ドイツの有名高級ブランド「JOST Bags」のバッグラインヘデザインを提供している。日本をルーツに持つアリスのデザインには折り紙の要素が含まれ、アリス＝紗良・オット本人の描いた絵も使われている。アリスの才能はスマートフォンにも及んでおり、アリス＝オットがデザインしたLINEスタンプは世界中でダウンロードが可能となっている。



©Jonas Becker